

(10) 倉敷芸術科学大学

① 開講期間・試験期間・授業時間

開講期間	前期	2022年4月11日	～	2022年7月29日
	後期	2022年9月26日	～	2023年2月2日
試験期間	前期	2022年8月1日	～	2022年8月5日
	後期	2023年2月3日	～	2023年2月9日
授業時間	1限	09:10	～	10:40
	2限	10:50	～	12:20
	3限	13:10	～	14:40
	4限	14:55	～	16:25
	5限	16:40	～	18:10

② アクセス(案内図)

倉敷芸術科学大学へ

【JR(新幹線・山陽本線 新倉敷駅)】

大学の最寄り駅はJR新倉敷駅です。

JR岡山駅からは山陽本線で新倉敷駅まで約20分です。

【バス・タクシー(新倉敷駅～大学)】

新倉敷駅から大学までは定期バスが運行されています。

倉敷駅からもバスは運行されています。なお、タクシー利用の場合、新倉敷駅から約15分です。



倉敷芸術科学大学公式HP「大学へのアクセス」(<https://www.kusa.ac.jp/about-university/access/>)

③ 担当窓口

学務部教務課	
所在地:	本館(3号)2階
電話:	086-440-1117

④ 開講大学から単位互換履修生への連絡事項

・ 履修申込期限

本学では、申込を以下の期限まで受け付けます。ただし、所属大学によって、提出期間が別に定められている場合は、その指示に従ってください。

前期:4月5日(火)まで 後期:9月16日(金)まで

・ 履修手続

対面授業科目を履修する方

講義室等をお知らせしますので、初回授業までに時間の余裕を持って教務課へ来てください。

・ 施設利用

倉敷芸術科学大学在学の学生と同じ扱いとします。図書館・学食等が利用可能です。

・ 特記事項

--

⑤ 各科目のシラバス

大学ホームページ シラバス掲載URL

<https://portal.kusa.ac.jp/Syllabus/Public/>

・対面授業科目

対面授業(教養科目)		10001	
倉敷まちづくり基礎論		橋元 純也	
Foundation of Kurashiki Community Development			
1～4年次	単位数 2	前期	1コマ
<p>【授業の目的】 倉敷市をはじめとするさまざまな地域のまちづくりを題材としながら、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる基礎的な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。 第1・2回で、本科目の地域連携科目としての位置づけや、まちあるきレポートの作成について確認する。第3～7回で倉敷市について、第10～13回で倉敷市以外について、それぞれのまちづくりの理念・施策・取りくみ事例などをまなぶ。第8・9・14・15回で、提出したまちあるき報告にもとづき、まちあるきの成果について選抜発表会をおこなう。</p> <p>【到達目標】 1.倉敷市におけるまちづくりの取りくみ事例について、理解し説明できる。 2.倉敷市以外におけるまちづくりの取りくみ事例について、理解し説明できる。 3.美観地区などにおけるまちあるきについて、予備的フィールドワークとして計画的に実践できる。 4.実践したまちあるきの成果について、文章や口頭によって明快に効果的に表現できる。</p> <p>【授業外学習】 第02回授業以降、美観地区などにおけるまちあるきを実践し、報告プレゼン資料を作成・提出する。提出は第1次期限(5月末)、第2次期限(6月末)のいずれかまでに、指定する方法でおこなう。作成中および提出後においても随時の指導を受けること。</p> <p>【注意事項】 後期科目「倉敷まちづくり実践論」の受講予定者は、本科目を事前に履修しておくことが望ましい。</p>			
<p>【授業内容】 01.科目概要ガイダンス / 地域連携・キャリア教育科目群について 02.倉敷のまちづくり概要 / まちあるき報告について 03.地域講師講演「倉敷の歴史と歴史資料整備室の活動」(予定) 04.地域講師講演「臨鉄ガーデンのまちづくり社会実験」(予定) 05.地域講師講演「まちづくりはまちで遊ぶこと」(予定) 06.地域講師講演「美観地区住人によるまちづくり」(予定) 07.中間まとめ① 倉敷のまちづくり事例 08.まちあるき報告 選抜発表会① 09.まちあるき報告 選抜発表会② 10.地域講師講演「ゲストハウスによるまちづくり」(予定) 11.地域講師講演「宿場町を復活させる矢掛屋の取り組み」(予定) 12.地域講師講演「高松丸亀町商店街の再開発」(予定) 13.中間まとめ② 倉敷以外のまちづくり事例 14.まちあるき報告 選抜発表会③ 15.まちあるき報告 選抜発表会④ / 期末まとめ</p>			
<p>【テキスト】 指定教科書なし。毎回、資料を配布する。</p>			
<p>【参考図書】 授業中に必要に応じて示す。</p>			
<p>【成績評価の方法】 提出物の状況・内容(100%)を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。 第03～07回の提出物の状況・内容(30%):到達目標1を評価 第10～13回の提出物の状況・内容(30%):到達目標2を評価 まちあるき報告の提出状況・内容(40%):到達目標3・4を評価</p>			

対面授業(教養科目)	10002		
倉敷まちづくり実践論	橋元 純也		
Practice of Kurashiki Community Development			
履修年次 1～4	2単位	後期	1コマ
<p>【授業の目的】 倉敷市などのまちづくりを題材としながら、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。</p> <p>第1～3回で、本科目の地域連携科目としての位置づけや、倉敷のまちづくりについて確認したうえで、地域フィールドワークの方法をまなび、その計画を作成する。第4～6回で、みずからの計画に沿って、倉敷市内の地域・施設・行事などを対象として地域フィールドワークを実践する。第7～9回で、実践した地域フィールドワークの成果について、報告・共有をおこなう。第10～12回で、地域フィールドワークを再度実践し、まちづくり提言を作成する。第13～15回で、作成したまちづくり提言の発表をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域フィールドワークについて適切に理解し、主体的に計画できる。 2.計画に沿った地域フィールドワークを積極的に実践できる。 3.地域フィールドワークの成果をふまえ、独自のまちづくり提言を作成できる。 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。 <p>【授業外学習】 地域フィールドワークの計画・報告、およびまちづくり提言について、内容・発表資料の見直しを随時おこない、必要に応じて担当教員に相談し指導を受けること。</p> <p>【注意事項】 前期科目「倉敷まちづくり基礎論」を履修していることが望ましい。 10/8土・12/3土・1/7土にすべて参加し、その間におこなうフィールドワークについて説明を受けることが、単位修得の前提となるので、下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。</p>			
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 01.科目概要ガイダンス【10/8土・3限目】 02.倉敷のまちづくりについて【10/8土・4限目】 03.地域フィールドワーク計画の作成・提出【10/8土・5限目】 04～06.地域フィールドワークの実践①【期間:10/9日～12/2金】 07.地域フィールドワークについて【12/3土・3限目】 08.地域フィールドワーク報告・前半【12/3土・4限目】 09.地域フィールドワーク報告・後半【12/3土・5限目】 10～12.地域フィールドワークの実践②【期間:12/4日～1/6金】 13.まちづくり提言について【1/7土・3限目】 14.まちづくり提言発表・前半【1/7土・4限目】 15.まちづくり提言発表・後半【1/7土・5限目】 			
<p>【テキスト】 指定教科書なし。毎回、資料を配布する。</p>			
<p>【参考図書】 授業中に必要に応じて示す。</p>			
<p>【成績評価の方法】 提出物や取りくみの状況・内容(100%)を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。</p> <p>地域フィールドワーク計画の状況・内容(30%):到達目標1・4を評価 地域フィールドワーク報告の状況・内容(30%):到達目標2・4を評価 まちづくり提言の状況・内容(40%):到達目標3・4を評価</p>			

対面授業(芸術学部)			10003	
メディア・アート論			大屋 努	
Media Art				
履修年次1~4	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 新しいメディア環境に対応した芸術表現として様々なメディア・アート作品を紹介し、テクノロジーとアートの関係を理解し、メディア・アートの本質を考察する。 メディア・アートとは、工学などの先端技術を取り入れたアートで、近年はコンピュータをはじめとするデジタルメディアの発展に伴い、インタラクティブアートが注目されている。</p> <p>【アクティブラーニング】 各分野のメディア・アートについて調べ、プレゼンテーションによる発表を行う。</p> <p>【フィードバック】 課題に対する講評等のフィードバックを含めた指導を行う。</p> <p>【到達目標】 1 多様なメディア・アートを理解することができる。 2 テクノロジーとアートの関係を理解し考察できる。</p> <p>【授業外学習】学習時間の目安：合計 60 時間 ・各分野のメディア・アートについて調べ理解を深める。 ・授業内で発表を行うために調査と準備を行う。</p>				
【授業内容】				
1. メディア・アートとは？ 2. メディア・アートの動向と作品紹介(メディア芸術祭) 3. メディア・アートの動向と作品紹介(Ars Electronica 1) 4. メディア・アートの動向と作品紹介(Ars Electronica 2) 5. メディア・アートの動向と作品紹介(Ars Electronica 3) 6. メディア・アート作品紹介(インスタレーション) 7. メディア・アート作品紹介(デバイス アート) 8. メディア・アート作品紹介(インタフェース) 9. メディア・アート作品紹介(Web・ソーシャル) 10. メディア・アート作品紹介(バイオ・その他) 11. 受講者 発表(1) 12. 受講者 発表(2) 13. 受講者 発表(3) 14. 受講者 発表(4) 15. 受講者 発表(5)				
【テキスト】 授業時間に適宜指示する。				
【参考図書】 授業時間に適宜指示する。				
【成績評価の方法】 授業に取り組む態度・姿勢(40%)、発表内容(60%)に基づいて総合的に評価する。 到達目標1は授業に取り組む態度・姿勢から、到達目標2は発表内容により評価する。 総合計 60 点以上を合格とする。				

対面授業(芸術学部)			10004
絵画基礎Ⅲ			田丸 稔
Basic Painting Ⅲ			
履修年次2～4	2単位	前期	2コマ
<p>【授業の目的】 絵画表現の基礎的な理解を踏まえた上で、写真や映像、コンピューター、インターネットを活用した作品のプレゼンテーション等について実技を交えた考察を行う。 その上で、デジタルメディアを活用した絵画表現や展示等を行う。 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。 【到達目標】 1.リアルな展示空間とバーチャルな展示空間の両者における作品展示の差異を理解できる。 2.SNSを自作作品発表のプラットフォームとして効果的に活用することができる。 3.ネット上のコンテンツとしての絵画作品の意味を理解することができる。 4.自身の表現世界を深め、あるいは広げることができる。</p> <p>【授業外学習】学習時間の目安：合計 30 時間 ・写真、映像、インターネットなどの素材を活用して作家や作品について調べる。 ・インターネット上で最新の作家についての情報を得ることができる。 ・授業外でも各自の制作を行う。 ・模写制作終了後、研究内容に関するレポートを提出する。</p>			
<p>【授業内容】 1 回目:オリエンテーション(授業の目的と概要について) 2 回目:リアルとバーチャルいずれも想定した作品の構想1 3 回目:リアルとバーチャルいずれも想定した作品の構想2 4 回目:課題 1 絵画作品の制作 1 5 回目:課題 1 絵画作品の制作 2 6 回目:課題 1 絵画作品の制作 3 7 回目:課題2絵画作品の制作1 8 回目:課題2絵画作品の制作2 9 回目:課題2絵画作品の制作3 10 回目:課題3絵画作品の制作1 11 回目:課題3絵画作品の制作2 12 回目:課題3絵画作品の制作3 13 回目:課題4 SNS 上へのUPとサイト作成 14 回目:課題4 過去の作品も含めたサイト充実化 15 回目:課題4 各自サイトと作品のプレゼンテーションとまとめ</p>			
<p>【テキスト】 適宜指示する。</p>			
<p>【参考図書】 成羽美術館作品図録他、適宜提示する。</p>			
<p>【成績評価の方法】 SNSを活用したポートフォリオ作成65%(到達目標1、2、3、4の評価)、およびレポート提出 35%(到達目標1、2、3、4の評価)。</p>			

対面授業(生命科学部)			10005	
水族飼育技術論			山野 ひとみ	
Breeding Technology of Aquatic Animals				
履修年次2~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 水族の飼育は、生物の収集から始まり、輸送、収容、維持・管理までの一連の過程から成り、その過程で発生する社会的、生物学的および技術的な問題を解決することで成立する。本講義では、水族飼育の基本的な流れを解説するとともに、飼育の過程で発生する様々な問題を取りあげ、その解決方法を紹介する。</p> <p>【到達目標】 1 水族飼育の基礎知識を身につけることができる。 2 各分類群の特徴を踏まえ、飼育過程で生じる問題およびその解決法を理解し説明できるようになる。</p> <p>【授業外学習】 次回の授業内容を確認し、専門用語の意味等内容に関連する情報を調べておくこと(各回 2時間)。 授業時間の初めに前回の講義内容に関する小テストを行うので、各回の復習をしておくこと(各回 2時間)。</p> <p>【授業内容】 1. 水族を飼育するために 2. 水族の収集と輸送 3. 飼育設備 4. 飼育水の浄化 5. 水族の飼育環境と病気 6. 水族の病気 7. 水族の餌料と栄養 8. 魚類の餌料と栄養 9. 無脊椎動物の餌料 10. 水族の繁殖 11. 水族の保存 12. 水族の保護 13. 水産養殖 14. 水産育種 15. まとめ</p> <p>【テキスト】 講義資料としてプリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 渡邊武編「改訂 魚類の栄養と餌料」(恒星社厚生閣)、日本ビタミン学会編「ビタミンの辞典」(朝倉書店) 日本動物園水族館協会編「新・飼育ハンドブック」1~4巻、間野伸宏・鈴木伸洋 共編著「水族育成学入門」(成山堂)、児玉 洋監修「魚病学」(緑書房)</p> <p>【成績評価の方法】 小テスト 40%(到達目標 1 を評価)、定期試験 60%(到達目標 1、2 を評価)により成績を評価し、合計 60 点以上を合格とする。 この授業では、定期試験が必須条件である。受験していない場合は評価の対象とならない。</p>				

対面授業(生命科学部)				10006
バイオメカニクス				枝松 千尋
Biomechanics				
履修年次3~4	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 安全に効率的にスポーツのパフォーマンスを向上させるためには、スポーツ技術の裏側にあるものを理解し、分析し、そして新たなものを創造することが必要である。 本講義では、力学・人体解剖学・運動生理学の複合領域であるバイオメカニクスを学び、科学的な視点からスポーツ技術を理解することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力学の基礎を身につける。 ・スポーツ技術をバイオメカニクスの観点から考察できる能力を身につける。 <p>【到達目標】 1「解剖学・力学の基礎を身につける」 2「スポーツ技術をバイオメカニクスの観点から考察できる能力を身につける」</p> <p>【連絡事項】電卓を持参すること。</p>				
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 身体のバイオメカニクスの特性と動作解析へのアプローチ法 3. 身体重心(慣性質量と慣性モーメント) 4. 加速度・速度・変位 5. 力 6. 運動量と力積 7. 投射体の運動 8. 力学的エネルギー・仕事・パワー 9. 力のモーメントと角運動量 10. 関節トルク 11. 流体力学(空気・水の力とスポーツ) 12. スキルのバイオメカニクス(1) 13. スキルのバイオメカニクス(2) 14. スキルのバイオメカニクス(3) 15. まとめ 				
<p>【テキスト】 阿江 通良・藤井 範久 著「スポーツバイオメカニクス20項」(朝倉書店)</p>				
<p>【参考図書】 プリント等配布</p>				
<p>【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢と課題(30%)、定期試験(70%)により評価する。</p>				

対面授業(生命科学部)			10007	
動物行動心理学			唐川 千秋	
Animal behavior and psychology				
履修年次3~4	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】</p> <p>動物のところが知りたい、動物が何を考えているかわかれば、それに合った対応ができると考えるのは当然であるが、それには動物の行動本来にさかのぼって、その意味・成立メカニズムを知る必要がある。擬人的にではなく、客観的に動物の行動が理解できるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1)動物の行動を生態学的・行動学的知識にもとづいて説明できる。 (2)動物の学習原理を理解する。 (3)さまざまな問題行動の原因と、それらへの対処法を理解する。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>学習時間の目安:各回4時間</p> <p>予習:教科書の指定ページを読み、概略をつかんでおく。教科書に挙げてあるキーワードを調べておく。 復習:各回の復習欄に記載した目標達成に向けて、内容を整理・理解する。 各章末の問題を解く。 指定したキーワードを用いて説明する形式の課題レポートを作成する。</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 オリエンテーションー動物行動学、比較心理学とは 予習:P.3-8 復習:進化に関する諸概念、エソロジーについて理解する。</p> <p>第2回 行動の進化と適応 予習:P.8-14 復習:家畜化の過程で起こる形態的・行動的变化について理解する。</p> <p>第3回 維持行動 予習:P.17-26 復習:イヌ・ネコの摂食・排泄行動などについて理解する。</p> <p>第4回 社会行動(1)社会構造、生殖行動、母性行動 予習:P.29-39 復習:群れの構造、生殖戦略、性行動について理解する。</p> <p>第5回 社会行動(2)イヌのコミュニケーション行動 予習:P.40-45 復習:イヌのコミュニケーション・サインについて理解する。</p> <p>第6回 社会行動(3)ネコのコミュニケーション行動 予習:P.46-54 復習:ネコのコミュニケーション・サインについて理解する。</p> <p>第7回 行動発現のしくみ 予習:P.57-70 復習:動機づけ、情動、行動の周期性について理解する。</p> <p>第8回 行動の発達(1)イヌの行動発達 予習:P.73-78 復習:イヌの発達段階ごとの特徴を理解する。</p> <p>第9回 行動の発達(2)ネコの行動発達 予習:P.79-82 復習:ネコの発達段階ごとの特徴を理解する。</p>				

<p>【課題1】2-9回の内容について、グループワークでコンセプトマップを作成する。</p> <p>第10回 動物の学習原理(1)条件づけ 予習:P.83-87 復習:動物心理学史を通して学習心理学成立の背景、条件づけ理論について理解する。</p> <p>第11回 動物の学習原理(2)学習理論の展開 予習:P.88-93 復習:条件づけ理論の展開について理解する。</p> <p>【課題2】10-11回の内容について、グループワークでコンセプトマップを作成する。</p> <p>第12回 問題行動(1)問題行動と行動診療 予習:P.101-108 復習:問題行動の原因と、行動修正に有効な技法を理解する。</p> <p>第13回 問題行動(2)イヌ、ネコにおける問題行動 予習:P.109-130 復習:イヌ・ネコの問題行動の種類と原因、療法について理解する。</p> <p>第14回 問題行動(3)イヌ、ネコにおける問題行動 予習:P.131-154 復習:イヌ・ネコの問題行動の種類と原因、療法について理解する。</p> <p>【課題3】12-14回の内容についてグループで、指定したキーワードを用いて問題行動についてまとめて発表する。</p> <p>第15回 問題行動の予防 予習:P.154-176 復習:問題行動の予防に有効な技法を理解する。</p>
<p>【テキスト】</p> <p>認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠応用動物看護学Ⅲ ISBN: 978-4-86671-085-3</p>
<p>【参考図書】</p> <p>日本動物心理学会(監)藤田和生(編著) 2015 動物たちは何を考えている? 技術評論社 ISBN: 9784774172583</p> <p>藤田和生 2015 誤解だらけの”イヌの気持ち 財界展望新社 ISBN: 978-4-87934-025-2</p> <p>その他、適宜紹介する。</p>
<p>【成績評価の方法】</p> <p>課題3編 30%(課題1は到達目標1、課題2は到達目標2、課題3は到達目標3に対応する)、定期試験 70%(到達目標1・2・3)の重みで評価する。総合計 60点以上を合格とする。定期試験を受験していない場合は評価対象としない。</p>

対面授業(生命科学部)			10008
医学概論			藤本 一満 他
The introduction to medical science			
履修年次1~4	2単位	前期	1コマ
<p>【授業の目的】 医学・医療・臨床検査・臨床検査技師の入門科目として、最低限知っておくべき歴史から最新情報を講義する。本講義で医学の大切さ、医療の仕組み、臨床検査の重要性、臨床検査技師の業務内容の基礎知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 1. 医療における臨床検査の役割を説明できる。 2. 臨床検査を行う現場を説明できる。 3. コメディカルスタッフの役割を説明することが出来る。</p> <p>【授業外学習】 学習時間の目安: 復習を中心に合計 60 時間程度 ・講義内容は最新情報や時事問題についても取り上げるため、講義内容をよく聞き、復習を心掛ける。 ・講義内容の関連事項について自ら調べて、知識や理解を広げておく。 ・医療に関する新聞記事、ニュースに関心を持ち、現代の医療状況、方向性、問題点を知る。</p>			
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査技師とは(藤本) 2. 医学検査・臨床検査のあゆみ(藤本) 3. 病院と病気(藤本) 4. 人体臓器について(三宅) 5. 各種がん細胞について①(三宅) 6. 各種がん細胞について②(三宅) 7. あなたの身近に潜む感染症—AIDS(森) 8. これからの医療—再生医療①(森) 9. これからの医療—再生医療②(森) 10. 免疫学概論(山崎) 11. 感染症学総論①(山崎) 12. 感染症学総論②(山崎) 13. 血液細胞の一生と生体防御について(渡部) 14. 血栓止血の不思議について(渡部) 15. 臨床検査の現場体験(病院見学)(渡部) 			
<p>【テキスト】配布プリント</p>			
<p>【参考図書】 特になし</p>			
<p>【成績評価の方法】 到達目標 1~4 に関して定期試験(100%)で評価する。総合点 60 点以上を合格とする。</p>			

対面授業(危機管理学部)			10009
キャリア研究			村山 公保 他
Career Research			
履修年次1~4	2単位	後期	1コマ
<p>【授業の目的】 社会人になっていくという意識を向上させ、職業観を醸成し、キャリアの形成についての見識を広げるため、倉敷内外の活躍されている公務員(一般、警察、自衛隊など)、経営者、起業家など、人生経験豊富な講師陣をお招きし、講演とグループワークの形式で授業を行う。 また、グループ討議や学外見学に関する課題を出題し、その発表会を行うことで、キャリア形成について主体的に考え、これからの大学生活や社会生活をどのように充実させていくのかを考える土台とする。</p> <p>【授業外学習】 ・授業内で学んだこと グループ単位で外部講師の講演を通して得たことをまとめる。まとめた内容は授業中に発表する。 ・学外見学で学んだこと グループ単位で企業見学、工場見学、イベント参加、体験会参加等の学外見学を行い、レポートにまとめる。まとめた内容は授業中に発表する。2箇所(2種類)に参加し、レポート発表は2回になる。</p> <p>【注意事項】 ・外部講師等の都合により日程や内容が変更になる場合がある。 ・この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れる。グループワークを行うので、グループのメンバーと連絡を取り合い、お互いに協力しながら、学外見学、レポート作成を行うこと。やむを得ない事情がある場合にはグループワークの課題を一人でを行うことを許可している。</p>			
<p>【授業内容】 第1回:(9/29):授業方針の説明 第2回:(10/6):外部講師の講演(未定) 第3回:(10/13):外部講師の講演(未定) 第4回:(10/20):外部講師の講演(未定) 第5回:(10/27):外部講師の講演(未定) 第6回:(11/3):外部講師の講演(未定) 第7回:(11/10):学外見学で学んだことの発表会(1回目)(未定) 第8回:(11/17):前半の授業を総合して「得たこと、気づき」の発表会(未定) 第9回:(11/24):外部講師の講演(未定) 第10回:(12/1):外部講師の講演(未定) 第11回:(12/8):外部講師の講演(未定) 第12回:(12/15):外部講師の講演(未定) 第13回:(1/12):外部講師の講演(未定) 第14回:(1/19):学外見学で学んだことの発表会(2回目)(未定) 第15回:(2/2):後半の授業を総合して「得たこと、気づき」の発表会(未定)</p>			
<p>【テキスト】 特に使用しない。</p>			
<p>【参考図書】 特になし。</p>			
<p>【成績評価の方法】 ・最終レポート100%で評価する。最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「外部講師の講演を聞いて得たこと、学外見学で行ったこと得たこと、グループ討議で果たした役割や得たこと、授業での発言、これから学び続ける姿勢」など、各個人のアピールポイントを論述するものとする。</p>			

大学コンソーシアム岡山 単位互換履修科目履修願

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

* 学生は太枠内のみ記入

倉敷芸術科学大学長 殿

提出日	年	月	日
ふりがな			
氏名			

写真 貼付

この度、貴学において単位互換履修生として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学等					
学部・学科・学年	学部	学科	年		
学生番号	性別	生年 月日	西暦 年		
	男・女		昭和・平成	年	月
現住所	〒		—		Tel () —

* 履修受付締切日：前期：4月5日(火)まで 後期：9月16日(金)まで

* 区分(教養/専門)：開講大学の区分を示しています。受講生の所属大学における区分については、申込みの際に所属大学で確認してください。

No	授業科目	区分	担当教員	単位	開講期	配当学年	備考	曜日・時限	履修希望	評価
対面授業科目										
10001	倉敷まちづくり基礎論	教養	橋元 純也	2	前期	1~4	定員 10名	木 13:10~14:40		
10002	倉敷まちづくり実践論 (※1)	教養	橋元 純也	2	後期	1~4	定員 10名	集中土 13:10~18:10		
10003	メディア・アート論	専門	大屋 努	2	前期	1~4	定員 10名	木 13:10~14:40		
10004	絵画基礎Ⅲ	専門	田丸 稔	2	前期	2~4	定員 10名	木 14:55~18:10		
10005	水族飼育技術論	専門	山野 ひとみ	2	後期	2~4	定員 10名	火 10:50~12:20		
10006	バイオメカニクス	専門	枝松 千尋	2	前期	3~4	定員 10名	木 13:10~14:40		
10007	動物行動心理学	専門	唐川 千秋	2	前期	3~4	定員 10名	木 09:10~10:40		
10008	医学概論	専門	藤本 一満 他	2	前期	1~4	定員 10名	火 10:50~12:20		
10009	キャリア研究	専門	村山 公保 他	2	後期	2~4	定員 10名	木 13:10~14:40		

※1:「倉敷まちづくり基礎論」(No.10001)を履修し、単位を取得しておくことが望ましい。

写真提出枚数 (カラー、4 cm × 3 cm, 裏面に大学名・氏名を記入する)	身分証明書用	学生原簿用	計
	0 枚	0 枚	0 枚